

認知症等により、行方不明となった場合、警察や登別市、高齢者介護関係者等が連携協力しながら、早期に発見し、保護するためのネットワークシステムです。

A cartoon illustration of an elderly man with a balding head and grey hair on the sides. He is wearing a green sweater and khaki pants. He has a thoughtful or confused expression, with his hand to his chin. Three large, colorful question marks (green, red, and yellow) are floating around him. In the background, there is a simple drawing of a house with a red roof and some green bushes.

【登別市独自の協力機関へ依頼】

室蘭警察署
☎46-0110

連絡

登別市役所
☎57-1075

介護保険
サービス
事業所

民生委員

病降

SOSネットワーク
協力機関

ガス会社

生協

家族などが近隣にいない場合・身
寄りがない場合

状況に応じて医療・介護サービス
(ショートステイ等)の活用(有料)

登別市地域包括支援センターけいあい

登別市地域包括支援センターゆのか

登別市地域包括支援センターあおい

登別市保健福祉部 健康長寿グループ ☎57-1075

はいかい

A vibrant, cartoon-style illustration of a group of nine people of various ages and ethnicities. In the back row, from left to right: a man in a blue shirt and white headband with a black triangle; a man in a green shirt and white cap with a green cross; a man in a white chef's hat and green shirt; a woman in a pink headscarf and pink shirt; and a man in a brown shirt and a tan hat with glasses. In the front row, from left to right: a young boy in a blue shirt and blue cap; a woman in an orange shirt holding a baby in a blue shirt; an older woman in a pink vest; a man in an orange shirt; and a young girl in a red shirt. They are all smiling and standing in front of stylized houses with pink, blue, and grey roofs, and green bushes.

認知症等が原因で徘徊する方の捜索について、地域の方や関係機関の協力を得て、一刻も早く発見して保護、または家族のもとへ帰すことで、生命及び身体の安全を図ることを目的とするものです。

所在不明者を発見または保護した場合は下記までご連絡ください。

登別市保健福祉部 健康長寿グループ

☎ (0143) 57-1075

※このパンフレットは、
登別市地域包括支援センターあおい・ゆのか・「けいあい」
と協働して作成しました。



●認知症とは

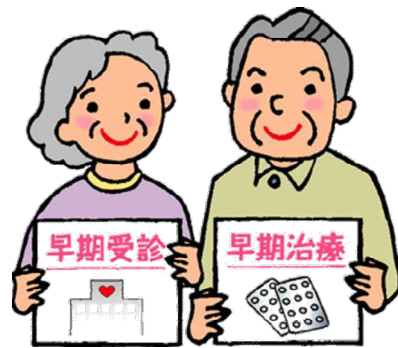
様々な原因から脳の働きが衰えることによって、生活に支障が出てくる脳の病気です。認知症には、記憶障害(体験の全体を忘れる)や見当識障害(人や場所、時間を正しく認識できなくなる)などの症状があります。

記憶障害や不安からくる混乱、自身のおかれている環境などから、人によっては「徘徊」「妄想」「幻覚」「睡眠障害」などの症状が現れることもあります。

早期に治療を開始すれば、病気の進行を遅らせたり、症状を軽くすることができます。早期発見、早期治療が大切です。

～記憶障害～

- 外出したこと自体を忘れる
- ご飯を食べたことを忘れる
- 毎日同じものをスーパーで買ってくる(家にあることを忘れる)



～徘徊～

- 目を離したすきにいなくなって、どこへ行ったかわからない

～見当識障害～

- 今いる場所がわからない
- 今が昼か夜かわからない
- 季節がわからない

～妄想～

- 財布を盗まれた泥棒がいる

～幻覚～

- その場にはいない人の声が聞こえる

●徘徊(はいかい)とは

認知症の症状の一つで、外出して自分がどこにいるのか、家がどこなのかわからなくなり、道に迷ってしまうことです。本人は不安な思いで歩き回っている場合もあります。

また、交通事故や転倒による骨折などのケガ、脱水や空腹による衰弱など、徘徊が長時間に及ぶと生命に関わる危険もあります。

●徘徊している可能性のある方は…

- 落ち着きがなく、困ったような様子がある。
- 季節に合わない服を着ている。
(夏にコートを着ている、冬に半袖のシャツを着ているなど)
- 左右ちぐはぐな靴を履いている。
- 持ち物に名札がついている。



●徘徊している方を見つけたら

- まず、やさしく声をかけましょう。

「どちらまでお出かけですか？」

「暑いですねえ」「寒いですねえ」

「何かお困りですか？」など

- 連絡先が書いてある物を身につけている場合は連絡先に、わからない場合は登別市役所の健康長寿グループへ連絡してください。

- どこかへ行ってしまわないように見守ってあげましょう。

- 長時間歩いて脱水になっている場合がありますので、水やお茶などの飲み物をすすめてください。「ちょっとこちらで、お茶でもどうですか？」など。

●対応例

「はいかい」?



いきなり後ろから大声で「名前は?」「住所は?」「何してるの?」と質問する。



「何回も説明してるでしょ! 家族の人が迎えに来るからそこでじっとしててください!」



本人の前で、目を見てやさしく「どちらまで行かれますか?」と話しかける。



何回も同じことを言わなくてはいけなくても、イライラせずに、初めて話すようにやさしく話しかけてください。

認知症の方への対応ガイドライン

認知症の方であっても、一般の人とのつきあいと基本的には変わりありません。

認知症の方への
対応の心得
“三つの「ない」”

「驚かせない」

「急がせない」

「自尊心を傷つけない」



具体的な対応の
7つのポイント

- 1 まずは見守る
- 2 余裕をもって対応する
- 3 声をかけるときは1人で
- 4 後ろから声をかけない
- 5 相手に目線を合わせてやさしい口調で
- 6 おだやかに、はっきりとした滑舌で
- 7 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する